

見学医院 さくら歯科医院 (草加市)

見学日時 8月24日(金)
9:30~13:00

見学のポイント

- ① 開放的な診療室
- ② みんなが笑顔
- ③ 待合室はゆったり♪カフェのよう
- ④ 移植もします！
チャレンジャー上田先生

① 開放的な診療室

東武伊勢崎線、新田駅から徒歩1分という近さのさくら歯科医院はビルの2階にあります。“階段”には所説あると思いますが、歩行者からの視線が診療室に入らない分、全面がガラス窓の明るい診療室です。ユニットは小さなパーテーションで簡易的に仕切られていて、患者さんは座ると目の前に新田の開けた景色が広がっていて、天井はなんと“空柄”!! 一瞬、歯科に来ていることを忘れてしまいそうです。

② みんなが笑顔

笑顔でいることは医療人として基本ではありますが、さくら歯科のみなさんはホントに気持ちのいい笑顔で対応していただけます。痛くて来院した患者さんもきっと思わず笑顔になってしまうでしょうね(笑)。



突撃!!ヘルスケア診療室!

(山田美穂)

③ 待合室はゆったり♪カフェのよう

入り口のドアを開けると広々とした待合室にカフェのようなカウンター。上には写真を趣味にしている患者さんの作品が飾られています。キッズスペースもあり、呼ばれるまでの時間をゆったり過ごせそうな待合室です。

受付にも作品がたくさん♪ちょっとしたアートギャラリーのようです。

④ 移植もします! チャレンジャー上田先生

見学をさせていただいている間、様々な患者さんのカルテや資料を見せていただきました。

なかでも印象に残ったのは“自家歯牙移植”の症例です。実際の術中写真やX線写真、予後の口腔内写真や経過など、私自身は本のがでしか見たことがなかったので興味深い症例でした。上田先生のお話を聞いていると患者さんのために良いと思われるものはどんどん勉強して実践されている様子が伺え、頼もしいチャレンジャー先生だと思いました。

今回さくら歯科へは、私の勤務する専門学校(歯)の学生も一緒に見学させていただきました。彼女たちにとっても有意義な時間となったようです。私が学生の頃には思いつきませんでした。動ける学生のうちに様々な医院を見学することで、自分の歯科衛生士としての未来像がちょっとでも想像できるようなきっかけ作りになればと“医院見学”をゴリ押



しているところです。ヘルスケアの医院であれば、現場で活躍する『かっこいい衛生士』をたくさん見ることができると思うので、今後も学生を送り込ませていただきたいと思います(笑)。みなさまどうぞよろしくお願いたします。

「うちにおいでよ!!」なんてお声もお待ちしておりますので、ぜひ山田までご一報くださいませ!

上田先生はじめ、スタッフのみなさまには学生にも親切にわかりやすく対応していただきありがとうございました! この場を借り改めてお礼申し上げます。



あめみや歯科医院は神奈川県秦野市にあります。緑に囲まれ自然豊かな地域です。

秦野の特産品ですが、落花生です。明治から昭和にかけて葉たばこの輪作の栽培として盛んにおこなわれていました。耕作あとの畑で良い作物がとれることなどがあり、大正には優秀な品種が育成されるようになり今に至っています。現在では全国的に優秀な産地となっており神奈川県ではシェアで第1位となっています。



YUKUSAKI

観光名所は丹沢山地があり神奈川県の面積の1/6を占める東西40km南北20kmにも及ぶ山地です。都心に近く登山者も多いです。

また、鶴巻温泉があります。温泉にはカルシウムが豊富に含まれていて、外傷や神経痛などに効果があります。丹沢山の登山の帰りにも寄れる日帰り温泉も多くあります。

なんつつ亭というラーメン屋がとて有名です。とんこつラーメンにこだわっていて行列がすごいです。

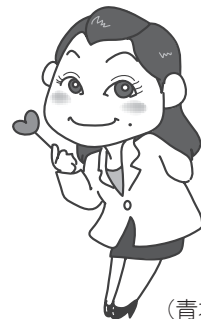
一度秦野にいらしてください。(清野早織・あめみや歯科医院)

今回は『心を含める』ことについて考えてみましょう。第1回目に「コミュニケーションスキルを磨くときに最も大切なのは『心を含める』こと」と紹介しましたね。「来院者が健やかな口腔を獲得する」ために、私たちのコミュニケーションは来院者の思いに届くものでなければならないと私は考えています。私たちの人生には「原因と結果の法則」が成立すると実感しているからです。ほぼ1世紀前に英国の哲学者ジェームズ・アレンという人が書いた本をご紹介しますね。この本は世界中で今もおお売れ続け、聖書に次ぐベストセラーとさえ言われています。「私たちは心の中で考えたとおりの人間にな



ります」

Dr.MEGUMIの コミュ好き磨き♥



(青木(阿部) 恵)

ります」 「心の中の思いが私たちを創っている」 …前回、染めだしをして磨き残しを見てもらい、「これが虫歯や歯周病の源ですから、しっかり歯磨きしましょう！」と、それこそ『心を含めて』一生懸命に口腔衛生指導をしたのに、今回もまたプラークがベツタリ。もお～、知らない！ …こんな経験ありませんか？ この場面で、衛生士さんは「磨けるようにならなきゃ、あなたが後で困るのよ！ 頑張ってください！」と『心を含めて』いたはず。でも結果がついてこない。それはなぜでしょう？ 私たちが『心を含

める』ターゲットは、「相手の行動」ではなく、「相手の思い・心」だと、私はこの本から学ぶことができました。今回は『心を含める』方法についてお話ししましょうね。



3日目：歯周病とカリエスの病因論，患者説明の内容と要領

私たち、歯科衛生士はカリエスや歯周病の病因論を熟知し、わかりやすく説明することはとても重要です。しかし、今回の講義で一方向的に説明するだけでは患者の口の中を守ることができないのだと気づきました。

今までは限られた時間の中で検査し、検査結果やカリエス、歯周病はどんな病気なのかを一生懸命伝えようと自分ばかりが話していて相手がどんな気持ちになっているのかということあまり考えていませんでした。

1回目のコミュニケーションスキルの講義でも学んだように、人は自分が気づいて望めば変わるが、他人である歯科衛生士が「このままでは歯周病が進行し、歯が抜けてしまうので歯磨き頑張りましょう」などと言って、患者を引っ張っても患者は変わらない。患者自身に今の口の中の状態に気づいてもらい、どうなりたいかを上手く引き出し、その望みが叶うようお手伝いすることが患者の健康を守ることに繋が

るのだと学びました。

午後からは超音波スケーラーの実習を行いました。毎日のように使用しているのでもいつの間にか自己流になってしまっていて、改めて把持の仕方や当て方を指導していただき気づくことがたくさんありました。当て方が少し違うだけで患者に苦痛を与え、歯を傷つけてしまうので今後、超音波スケーラーを使用するときは気をつけたいと思います。

あっという間に口腔内写真撮影と歯周組織検査検定まで約2ヵ月となりました。今は検定に合格することが目標ですが、検定だけにこだわらずに患者にとって何が一番良いのかを常に考え前進していきたいです。

(鴫田智美・栗林歯科)

4日目：PMTc 相互実習，シャープニング実習

午前はPMTc 相互実習を行いました。普段のPMTc ではつい全額を研磨しようとしてしまいがちです。前日の講義、実習前では“PMTc とはただ歯面研磨をすることだけでなく、患者さんのリスク部位はどこなのかを見極めそのプラークを除去すること”と学び、それを頭に入れ実習に臨みました。染めだしをしてどこにプラークがあるか明視下で確認しましたが、いつも通りにやってみるとなかなかプラークは落ちません。プロフイーカップで研磨後、2度染めをするといかにいつものやり方だと磨き残しが多いか実感しました。試行錯誤しアドバイスしていただきながら、

低速で、ゆっくり、順序を決めて行くと、効率良くプラークを落とすことができる！ PMTC を行ううえで有効なポイントを知り、臨床で役立つ情報が満載でした。この基礎コースの最大のメリットは、各ユニットに1人インストラクターの方がつき、マンツーマンでじっくりご指導いただけることであると思います。普段の診療での疑問を解決できる、本当に恵まれた環境です。多くの気づき・学びを得て、大変有意義な時間を過ごすことができました。

午後はシャープニングの実習を行いました。シャープニングをするうえで一番大切なのは、そのキュレット・スケーラーが研げているか自分で確認できること。テストスティックを鳴らすのが苦手な私… 果たしてどこまでできるようになるのか不安でした。的確なポイントを分かりやすく解説していただき、インストラクターの方々のチェックを受けながら練習！ 最後にはスケーラーのブレードの部位別で研げてるか研げてないかを見分けられるまでになりました。今ではピン！ピン！とキュレットを鳴らすのがすごく楽しいです。短時間での成長を感じることができとても嬉しく思います。適切なシャープニングを行ったキュレット・スケーラーを使用することで患者さんを健康な口腔内へと導くことができます。プロとして当たり前のことを当たり前にできる歯科衛生士でありたいです。

いよいよ次回は検定です！ ひたすらに練習、頑張ります！！(鈴木佳奈・ゆいとびあ歯科医院)

セミナー☆まにあ

GC 東京講演会 2012.9.9

8020 達成後の世界、そして、新たなる挑戦
～長期症例から見てきた課題とその対応～



(長山和枝・わたなべ歯科)

丸森英史先生、加藤正治先生、花田信弘先生と、3名の先生方がそれぞれの得意分野からみる「エイジング」について、そしてその対応についてをお話してくださいました。

丸森先生のお話を聞いて、もちろん臨床年数も、医院の歴史も、患者さんからの信頼も、データの蓄積と分析もすばらしいのですが、一番は、患者さんの歯の健康だけでなく、人としての健康を考えていらっしゃるということがとても素晴らしいと思いました。疾患のみをみるのではなく、人全体を見る歯科医療を何十年も昔から志し、関わり続けていらっしゃるその在り方。とくに食事指導に関しては、周りでそのようなことをする歯科医院がないような時代からずっと続けていらっしゃる、その長期症例から「何をどう食べるか」が全身の健康にも、口腔内の健康にも非常に深く結びついていることを力強く示してくださいました。丸森先生は、これが答えだ、というような明確なことはおっしゃいません。ですが、健康観が確立された人がどのような未来を歩むのか。90歳をこえた方の症例にみる、びちびちの歯肉、つやつやの歯面、明確に事細かに記された食事記録と口腔内の変化に思わず「おお～」と歓声をあげたくなるような、素晴らしい長期症例、魅せてくださいました。

またその反面、避けることのできない歯の老化とその障害。むし歯も歯周病もある程度落ちていたのに、60歳をすぎるとなぜか急に、トラブルが発生しはじめ、70歳になると、エナメル質が壊れ、80歳になるにつれ、崖から転げ落ちるようにトラブルが多発。破折やセメント質剥離によってあっという間に歯を喪失していく長期症例も見せてくださいました(もちろん全員がそうではないですが)。エイジングにフォーカスした長期症例に、「歯にも限界がある」「歯も老化する」ということを痛感し、それをふまえた予防の関わりとは何なのか、天然歯を天然歯のまま残しておくことがいかに価値のあることなのか、カリエスフリーの価値、メンテナンスの価値についてもより高めることができました。

また、加藤先生が教えてくださった、歯が

生えたときから始める「エイジマネジメント」は、カリエスを予防する、ペリオを予防するというそれだけでなく、「エイジング」を視野にいれた歯科医療の関わりについて学ばせていただきました。補綴物の材質を考えて破折を予防することや、破折の予防を視野にいれた有髄歯のジルコニアクラウン、象牙質のエナメル質化による根面カリエスの予防、歯周病菌の種類や数を数値として評価することでの患者さんのモチベーションの向上とペリオを発症させないことの重要性、ドラッグリテーナーを用いての化学的な細菌コントロールなど、とことんまで予防の手法、手段を駆使した「予防医療」と、口腔内を見るときに気をつけるべき点、メンテナンスでの見逃せないポイントなども教えていただき「治療をしたからには予防をする責任がある」というお話は大変興味深いものでした。

近年の歯科疾患実態調査で、8020を達成した人たちが増えてきていることと、12歳のDMFTは下がってきていることがわかりましたが、成人してからの歯科疾患罹患率は、過去も現在も変わっていないということも教えていただきました。カリエスもペリオも、なくなっていないし、おそらくこれからもなくならないだろう、というお話はとても衝撃的で、丸森先生の「どんな状態の歯を20本残すのか? どんな長寿をどう実現するのが、HAPPYな長寿なのか?」という問いかけともリンクして、「むし歯ゼロ、やったね!」「8020達成、おめでとう!」だけでは終わらないということ、まだまだ「予防」という分野においてすべきことはたくさんあるのだということも学びました。

花田先生のお話では、大学病院などは診療科が別れていたりしますが、予防はあえて分けるものではなく、インプラント、補綴、保存、いずれの治療においても「予防はセット」というお話は、歯科衛生士の役割がとても重要かつ求められているということも

感じ、嬉しくもありました。高血圧、高血糖、高コレステロール、内臓脂肪に始まる、メタボリックシンドロームと食生活の関係はとて大きくWHOでも提唱されているように「健康は栄養が基本」「何を食べるか」「どれだけ食べるか」「どんな風にたべるか」は健康の基本であることを教えてくださいました。でも、「健康=栄養」ではなく、「健康←食べられる←栄養」であり、歯科の担う、「食べられる」という部分なしにして、健康はなし得ないというお話に非常に納得しました。細菌の温床である口腔内は全身の健康を脅かす菌血症の入り口になるということも教えてください「お口の健康を守るといことは、全身の血管を守るといこと」というとても大きなテーマを提示してくださいました。

エイジングに伴い、ライフイベントも、ライフステージも変わります。お仕事を退職なさったり、友人やパートナーとの死別があったり。体はだんだんと病気も増えてくる年齢。そんないろんなことから心のストレスがあったり、今までできていたことが、できなくなってきたり。そんな積み重なりも、人として生きるうえでのエイジングの一つ。普段関わらせていただく年配の患者さんを思い出し、振り返り、どれだけその方の人生に寄り添って発言していただろうか。ただやみくもに「歯磨きががんばってください」などと伝えていなかったらどうか。という反省点もみつき「その人を想い、その人を尊重し、その方の笑顔と健康、人生に寄り添う歯科衛生士でありたい」という新たな課題ができました。食べること、笑うこと、お話すること、その方がより健やかに生きることをそっと支える歯科の役割は超高齢社会において、とても重要。私たち歯科の分野が超高齢社会における健康のベースを作るんだ! と鼓舞させられるような盛りだくさんな講演会でした☆

★I am DH★

～なってよかった衛生士～

はじめまして。千葉県佐倉市にありますが、佐倉ウェルネス歯科医院の副院長 木村めぐみと申します。

当院は「予防」が主体の医院で、現在初診来院患者さんの93%がサリバテストを受けリスク診断を行い、診査後、治療計画を立て治療を受け、定期メインテナンスのために通っていただいております。また、早い時期からの予防を行うことが重要と考え、0歳からのむし歯予防を提唱し、唾液検査を行い、リスクコントロールを行うことで12歳カリエスフリーを目指す取り組みを行っております。

私は歯科衛生士ですが、めぐりあわせで今はマネジメントを行っています。医院では患者さんに治療計画のご説明を行うTCも兼務しています。一生涯を通して、本当

の意味で患者さんの利益になる治療をご提案させていただき予防の重要性をお伝えすることに誇りを持って仕事をしています。

歯科衛生士になって17年が経ちますが、以前はペリオ処置やメンテナンス、歯科医師の審美補綴やインプラントのアシスタント、ホワイトニングなどを行うごく普通の衛生士業務を行っていました。ペリオ処置は、患者さんの行動変容へのアプローチとTBI・SC・SRPなどの処置後、口腔内にどのような結果が出ているかが目に見えてわかること＝自分の仕事に対しての結果がすぐに、確実にわかることがとてもやりがいでした。また、患者さんとのコ



(木村めぐみ・佐倉ウェルネス歯科医院)

ミュニケーションで信頼関係を築くことが何より楽しかったです。歯科衛生士業務は今でも私の天職だと思っています。

今は对患者さんから、対スタッフに予先が変わっていますが、患者さんによりよい治療をご提供できるようにスタッフを教育すること、チームで結果を出していくことにとてもやりがいを感じています。

「ウェルネスに通う患者さんはみんな笑顔！」をモットーにこれからもがんばっていきたいと思います。



★★★ 歯科衛生士 (10月10日発行)

A4判変型 102ページ 1,470円

特別企画「知らなかったではすまされない! 感染性心内膜炎とSRP」

感染性心内膜炎は「心臓内膜に細菌集簇を含む疣腫を形成する敗血症疾患」です。この特集を読むまで、感染性心内膜炎が死に至る疾患ということは知りませんでしたし、また、ここまで歯科と深い関わりを持つということを、深く考えたことはありませんでした。

歯科が原因で感染性心内膜炎が発症することがあり、疣腫の形成には口腔内細菌が関連していることや、SRPで発症する可能性もあるということに驚きました。



クインテッセンス出版刊

日々の診療の中でSRPを行うことは度々あります。私たちに必要なのはリスク患者を見極めることです。そのためには問診を徹底することがとても大事だと感じました。

あの本 この本 読みくらべ隊



デンタルハイジーン (10月20日発行)

B5判 96ページ 1,365円

新連載「臨床に生かす! 酸蝕歯の実態・ケア・食生活」

まず私がこの特集で気になったのは「Tooth Wearは第3歯科疾患!」というフレーズでした。健康志向の向上、嗜好品の変化など食生活習慣の変化が認められ、酸蝕を含むTooth Wearはう蝕・歯周病に続く第3の歯科疾患ということでした。



医歯薬出版刊

酸蝕歯の例として出ている写真を見て、実際に臨床でみたことがあるものもあり改めて酸蝕歯が多いということを実感しました。次号でも引き続き勉強していこうと思います。

DHstyle (10月1日発行)

B5判 116ページ 1,260円

「患者さんが喜び! 歯ブラシコーディネート術 プラークをみて患者さんを知ろう」

臨床において、ブラッシング指導をしない日はありません。取り残したプラークを患者さんへお見せして指導するという流れで行っていますが、頑張っ磨いて来てくださる方もいれば、そうでない方もいたり、モチベーションを向上させるにはどうすればよいのか感じていました。患者さんの口腔内環境を理解し、なぜプラークがつきやすいのか、理由を考えてみることで患者さん個人にあった指導がやはり大切なのだと改めて勉強になりました。



デンタルダイヤモンド社刊



編集後記

【The HyG Times】第19号です。今回の内容を読んでも、これからの歯科業界は「アンチエイジング」の波に乗り、確実に従来型の歯科は衰退していきそうですね。お口の健康と共にいつまでも若々しく! 実にヘルスケアっばい♪ 今年もあとわずかですが、自分のアンチエイジング... 考えようと思うわたくしです。みなさんはいかがでしょう? (「ハイジなわた歯」隊長: 山田美穂)
情報提供・質問・問い合わせ「The HyG Times 編集部」: hygtimes@gmail.com